

会員各位

2022年度 愛知県病院薬剤師会がん部会 参加者募集のお知らせ

一般社団法人 愛知県病院薬剤師会 会長 山田清文
愛知県病院薬剤師会 がん部会部会長 宮崎雅之

「愛知県病院薬剤師会がん部会」は2014年に発足し、がん薬物療法を学びたい方、専門・認定薬剤師の取得を目指す方、専門・認定薬剤師を取得し更に研鑽を目指す方など、多くの薬剤師を支援する会として活動しています。

当会は、他院の薬剤師との連携や人間関係を構築し相互に切磋琢磨することで薬剤師としてのモチベーション維持に役立つ場、および日常臨床での疑問や相談に対応できる場として、多くの先生方が継続して参加されています。また、経験豊富な運営委員の懇切丁寧なサポートにより、5つのグループに分かれて活動し、その成果を学会発表や論文投稿など様々な形で積極的に発信しています。

新型コロナウイルスの影響により集合しての活動が行えない状況ではありますがWeb ミーティング、メーリングリストの活用など時勢に応じた手法を用いて、グループごとに積極的なコミュニケーションを図り、新規臨床研究計画の立案、学会発表や論文投稿などの成果を上げることができました。

2022年度についてもウィズコロナ、アフターコロナを見据えた様式での部会活動を積極的に進めていきます。この度、下記のとおり参加を希望される方の募集を行いますので、多くの会員の皆さまの応募をお待ちしています。また新たな活動に関しても是非ご提案ください。

同じ志を持つ仲間と一緒に勉強し、愛知県のがん薬物療法の発展に貢献していきましょう。

記

1. 対象 所属長の許可を得た病院薬剤師、薬局薬剤師、薬学部職員で年間を通じて継続参加可能な方
2. 開催 2022年4月から～2023年3月（1年間）原則月1回
3. 場所 原則 web 開催（集合研修可能となれば名古屋市内および近郊の公共施設などで実施予定）
4. 内容 がん領域について臨床研究、教育活動などを多施設の薬剤師と共同して実践する
各グループの活動内容は次頁の通り
5. 募集人数 100名程度
6. 募集締切 2022年4月15日（金）
7. 参加費 （集合開催の場合）1回あたり500円（但し、報告会や学術講演会は別途参加費が必要）
8. 申込方法 登録サイト（<https://forms.gle/91y9Jyg7xabcpbNW9>）で必要事項を入力し送信
QRコード



9. 第1回定例会 未定
各担当運営委員より案内があります。
10. 問合せ先 愛知医科大学病院 薬剤部 堀田 和男（E-mail：k2hotta@aichi-med-u.ac.jp）

グループ活動内容

【Clinical question (CQ) を解決していきたい方】グループA, B, C

薬物療法において日々遭遇する臨床疑問や問題点を解決する手段として、臨床研究の実施が有用とされています。また、2018年に施行された臨床研究法においては、われわれ薬剤師もより質の高い臨床研究を行うことが求められています。今年度は、これまでに開始した取り組みを継続し、以下の3グループにおいて臨床現場で感じるClinical Question(CQ)をディスカッションし、臨床研究を立案し、文献調査、研究計画書の作成、各施設の倫理委員会の申請、承認後、データを収集し、解析して、CQに対する答えを導いていくことを目指します。臨床研究の組み立てから学会発表、論文作成に至るまでの過程を、経験者からの手厚いサポートにより実現していきます。臨床研究未経験の方、研究テーマはあるが症例数が少ない方など、多施設による共同研究を通じて情報交換しながら、お互いに刺激し合いレベルアップしましょう。

・グループA：がん治療の効果に関する臨床研究（担当運営委員：中京病院 中根茂喜、名古屋大学医学部 附属病院 宮崎雅之）

現在グループAには27名が所属し、新規テーマとして①アナモレリン、②トリフルリジン・チピラシル、③化学療法関連死、④高齢者への化学療法の4つのテーマに取り組み、学会発表、論文投稿を目指しています。毎月の定例会では、臨床研究以外にも症例検討や日常業務の疑問について検討、情報共有する「お悩み相談コーナー」を行っています。がん関連の経験が浅い初学者（薬剤師歴2年目）から経験豊富なベテランまで和気あいあいとした雰囲気です。

・グループB：支持療法に関する臨床研究（担当運営委員：中部労災病院 山口智江、三河乳がんクリニック 佐々木俊則、名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 佐藤由美子、愛知医科大学病院 堀田和男）

グループBには18名が所属し、2021年度に開始した研究テーマとして、①愛知県のコロナ禍におけるがん薬物療法の影響に関する研究、②がん患者の病院薬剤師・保険薬局薬剤師への要望に関する研究、③特定薬剤管理指導加算2におけるトレーシングレポートに関する研究に取り組み、学会発表、論文投稿を目指しています。支持療法を中心とした研究活動とともに、月1回の定例会では、症例検討や抄読会、日常業務の相談・情報共有も行っています。これまで学会発表や論文作成をしたことがない先生も心配いりません。ぜひ一緒に臨床研究にチャレンジしてみませんか？

・グループC：緩和療法に関する臨床研究（担当運営委員：トヨタ記念病院 遠山幸男、名城大学 築山郁人、総合大雄会病院 後藤健志）

グループCには25名が所属し、大きく4班（オピオイド班、サイコオンコロジー班、ポリファーマシー班、オピオイド採用状況調査班）に分かれて緩和領域に関する研究活動を行っています。また、月1回ZOOM開催しているグループ全体会では研究内容のみでなく、緩和領域に関するCQや困っている事例（症例）などを共有・解決していく場を設けています。

新年度もグループ活動を通じ、多くの皆様と学んでいきたいと考えております。

【Clinical question (CQ) を共有し学びたい方】グループD

・グループD Clinical question (CQ) に関するグループ（担当運営委員：一宮市立市民病院 岩田智樹）

グループDには、病院薬剤師と保険薬局薬剤師が参加しており、参加者それぞれがCQを提示しSGD形式などを取り入れた全員で共有できる情報交換の場として医療（薬薬）連携を視野に入れた他職種参加型のWSなどの企画、運営などを行いながら診療ガイドラインに準じた基本的な知識の修得だけでなく、臨床の現場で活かせる実践的な学習をしていきたいと考えています。

【業務に直結するツールを作成したい方】グループE

・グループE：業務に直結するツール作成グループ（担当運営委員：KKR 東海病院 川合甲祐）

診療ガイドラインは、経験の浅い薬剤師にとって難しいと感じることがあったり、副作用対策や薬物療法の内容が十分ではなかったりすることがあります。当グループでは、診療ガイドラインに沿って薬剤師の必要とする情報をがん種ごとにまとめた「消化器癌 Reference book」を作成し、愛知県病院薬剤師会のホームページにて会員向け公開しています。また、がん薬物療法における副作用に焦点をあてたツールの作成も検討中です。がん治療に携わる薬剤師の教育や業務支援となるツールの作成に取り組みましょう。